

(財)日本医療機能評価機構認定病院

地域医療支援病院

盛岡赤十字病院地域医療連携室広報誌



LEAF

令和7年6月

第53号

盛岡市三本柳 6-1-1

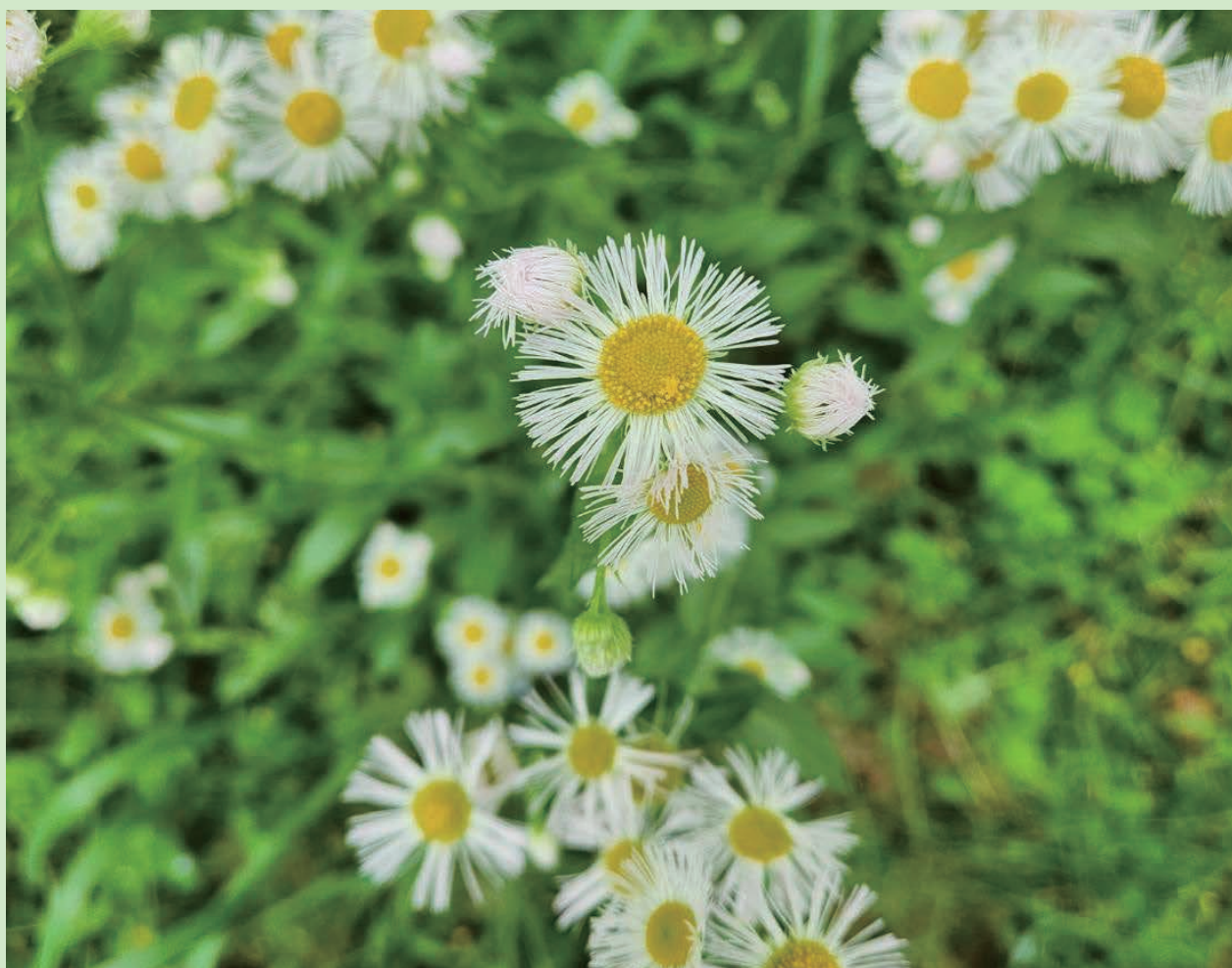
盛岡赤十字病院

地域医療連携室

発行責任者 院長 藤原 純

<基本理念>

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、
みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



写真：ハルジオン

特集

新任院長・副院長就任のご挨拶
新任医師・研修医紹介

院長 就任のご挨拶



院長 藤原 純

先生方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は当院の運営にご支援・ご指導をいただき厚く御礼申し上げます。このたび盛岡赤十字病院院長を拝命いたしました藤原純でございます。私は平成4年に当院に赴任して以来、産婦人科医として臨床に携わってまいりました。令和3年からは副院長に就任し、久保前院長のもとで病院運営に参画いたしました。未熟者でございますが、一層精進いたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

当院は、人道・博愛の赤十字精神を理念に掲げ、長きにわたり皆様と連携しながら、急性期医療を中心とした診療を行ってまいりました。今後もその方針に変わりはなく、さらに質の高い医療を安定的に提供できる体制づくりに尽力してまいります。

医療を取り巻く環境は年々変化し、複雑化しております。少子高齢化の進行や医師・医療スタッフの不足、在宅医療の拡充など、地域医療に求められる役割も多様化しております。その中で、病院単独では対応しきれない課題に対して、今後ますます医療機関同士の「連携」が重要になってまいります。私はこれまで、患者さん一人ひとりに寄り添うことを第一に考え、地域全体で支える医療のあり方を模索してまいりました。今後は、当院の特性を活かしつつ、貴院をはじめとした地域の医療・福祉・介護の各機関と一層の連携を図り、切れ目のない医療提供体制の構築に努めてまいります。また、紹介患者さまへの対応や、情報共有の迅速化など、貴院との信頼関係をより一層深められるよう、職員一同努力してまいります。引き続きのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

副院長 就任のご挨拶



副院長 藤原 隆雄

この度、令和7年4月1日付で盛岡赤十字病院副院長を拝命いたしました藤原隆雄と申します。簡単に自己紹介いたします。私は盛岡に生まれ盛岡で育ち、学生時代の数年間を除き人生のほとんどを岩手県で過ごしてきました。平成5年に医師となり岩手医科大学第一内科（現消化器内科）に入局し、その後大学病院と主に県内の関連病院に消化器内科として勤務してきました。当院には平成21年に赴任し、消化器内視鏡分野を主として一般的な胃腸疾患、肝臓疾患、胆膵疾患などの診療にあたってきました。また、平成20年に日本DMAT隊員に登録となり、同年の岩手宮城内陸地震、平成23年の東日本大震災、昨年の能登半島地震など災害時の救助活動にも携わることが多くありました。

今回副院長職の命を受け、今まで培ってきた診療の経験を生かすことはもちろん、院内全体へと視野を広げより良き病院を目指したいと考えています。そのためには周辺医療機関の方々との協力が不可欠と考えています。今後さらに医療連携を密としてかかりつけ医の先生方や近隣の病院と連絡を取り合い、地域のみなさんが安心して医療を受けていただけるよう努めてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。



副院長 西嶋 茂樹

盛岡赤十字病院副院長を拝命致しました西嶋茂樹と申します。私は麻酔とペインクリニックを専門としております。当院に赴任以来、麻酔管理を通じて手術の安全性の向上に加えて、超音波（エコー）ガイド下神経ブロックを導入して手術後の痛み軽減に努めて参りました。ペインクリニックではこれまでの痛み治療に加えて漢方診察（舌診、脈診、腹診）も取り入れて治療の幅を広げるよう努めて参りました。

これからの医療について考えますとデジタルトランスフォーメーション、AI技術の利用等がさらに進められると思います。日経新聞に「生成AIを利用した文章作成」の利用により職員の負担を軽減して余力のある体制を作り出し、医療関連サービスの品質を向上させて収益が増加した病院の記事がありました。確かにこれらの技術は取り入れていかなければならなりません。これまでの人と人を介したやり取りを希薄にしてはいけないと考えます。これまでのアナログ的な良さも残して進化した技術を取り入れ、さまざまな患者様に対応できる優しい病院でありたいと思います。

私どもの病院も地域と共に考えていく時代を向かえていると思います「病院から地域へ」の発想も、これまで以上に必要と考えております。また、復興支援道路関係のスローガンに「強く元気につながる」とありました、当院も盛岡市や近隣の市町村、さらに遠方にて良い医療を提供しようと日々、努力されている皆様と「強くつながり」双方向性のある医療を展開して参りたいと思います。宜しくお願い致します。

新任医師のご紹介



外科医師 下沖 美里

(シモオキ ミサト)

一言：1年ぶりに日赤に戻ってきました。精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



整形外科医師 吉直 大佑

(ヨシナオ ダイスケ)

一言：4月から9月までの半年間、整形外科外来で勤務させていただきます。島根県出身で、岩手医科大学救急科に所属しております。専門は救急外傷やDr.Heliなどの病前救急医療です。今回、整形外科領域での経験を深めたく修練の場として日赤を希望いたしました。地域に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。未熟な点も多々あるかと存じますが、よろしくお願いいたします。



消化器内科副部長 及川 隆喜

(オイカワ タカヨシ)

一言：本年度より盛岡赤十字病院消化器内科に赴任致しました。驕ることなく、日々努力していきたいと思えます。宜しく御願い致します。



循環器内科副部長 高橋 祐司

(タカハシ ユウジ)

一言：2025年4月から盛岡赤十字病院に入職しました高橋祐司と申します。循環器内科を専門とし急性期診療から慢性期診療の経験を重ねて参りました。特にアテローム性動脈硬化性疾患の終末像といわれている下肢末梢動脈疾患の診療・治療に力を注いで参りました。足病でお困りのことがあればいつでも御紹介下さい。



泌尿器科医師 室伏 竜之介

(ムロフシ リュウノスケ)

一言：泌尿器科の室伏です。まだまだ未熟ですが1年間よろしくお願いいたします。



産婦人科医師 徐 碧美

(ジョ アミ)

一言：まだまだ経験が浅く、未熟ではありますが、少しでも産婦人科医としてお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



総合診療科医師 津島 太陽

(ツシマ タカヒロ)

一言：気軽に声をかけていただけると嬉しいです。



研修医のご紹介



研修医 辻 裕人

(ツジ ユウト)

一言：この4月から盛岡に住み始めました。慣れない新生活ですが、地域の皆様や、一緒に働く病院の方々が優しく、もう既にこの土地に愛着を感じています。早く戦力となり、患者さん、病院、そしてこの地域に貢献できるよう努めたいと思います。



研修医 大島 久直

(オオシマ ヒサナオ)

一言：家族医療、地域医療に対して大きな関心があり、少子高齢化が進行している岩手県で皆様の一助になりたいと考えました。早く仕事に慣れ、貢献できるように精進したいと思います。